

バーベナ クオーツ・シリーズ

発芽のよい種子、そして生まれもった苗の力強さ。 どのバーベナよりも高い満足をお届けします

- クオーツは、バーベナの大敵であるウドンコ病への耐性にすぐれ、花壇での強さに大きな差が現れるシリーズです
- 高温で乾燥した土地を好み、その条件下ではクオーツは、株を張って美しいマウンド状の草姿を形成し、丈も 25-30cm ほどにまで育ちます
- ひとつひとつの花も大きく、そしてそれによって構成される花序も大きく、ダークグリーン of 葉と美しいコントラストが織り成される品種です
- シリーズ内では開花の差も少なく、またクオーツはイールドポテンシャル 85%+ の品種です

本品種の学名: *Verbena x hybrida*
種子粒数: 420 粒/グラム

発芽ステージ 播種

- 培地の水分管理が、バーベナの発芽の成否を左右する重要なカギになります
- バーベナの播種では、ドライから中くらいの水分を含んだ培地で行います。水分が多すぎると、発芽のパフォーマンスは徐々に下がって、負の相関の関係になります
- (ドライから中くらいの)水分レベルは、播種・覆土マシンのウォータートンネルの水圧やミストノズルの数、あるいはスピードを調節することでコントロールが可能です

プラグ培地の水分レベルを判断するための標準の定義:

過湿の定義: 培地が過湿のときは、プラグトレイの下側を指で軽く押してやると、トレイの底や土の表面から水が浸出します

中庸の水分量(ミディアムウェット)の定義: 培地の表面は、水で光っていますが、上記の「過湿」のときのように水がトレイの底から浸出することはありません。指先で触れてみて、培地の上部にだけ少し浸透している状態。

ドライ: 培地の表面の色がライトブラウンになり、トレイのセルを押しても底から水分が浸出してこない状態

ステージ 1 (播種から幼根発現まで)

発芽温度: 22-24°C
相対湿度: 95-97%
発芽日数: 4-6 日
トレイサイズ: 392 穴プラグトレイ

プラグトレイは、粗めのパーミキュライトでよく覆土します。バーベナの発芽生理として、嫌光性なので、しっかりと光の入らない環境を作ります

ステージ 2 (幼根発現から子葉展開まで; 10-14 日)

EC 値*: 0.5 - 0.75 mmhos/cm

pH: 5.8 - 6.2

発芽チャンバーから一度トレイを出したら、土壌の水分は中庸の水分量で(ぬらし過ぎず、乾かし過ぎず)管理します。苗がしっかり活着するまでは、過湿にならないようにします。ステージ 2 の始まりからプラグの終了時まで、地温は 21-22°C を維持します。育苗時の気温は、昼間/夜間をそれぞれ 21-22°C/15°C で管理します。

ステージ 3 (子葉展開から本葉生長まで; 10-14 日)

EC 値*: 0.75 - 1.0 mmhos/cm

pH: 5.8 - 6.2

週 2 回の間隔で苗への施肥を開始します。14-0-14 と 20-10-20 の肥料を 50ppm(N) の濃度で、交互に与えましょう。1 週後に、窒素の濃度を 100ppm に上げ、この肥料設計でプラグステージ終了まで続けます。育苗の気温は、昼間/夜間をそれぞれ 20-21°C/15°C で管理します

ステージ 4 (本葉生長から出荷・移植時まで; 7 日)

EC 値*: 0.75 - 1.0 mmhos/cm

pH: 5.8 - 6.2

ステージ 3 で用いられた育苗温度と肥料設計を維持します。このステージ以降は、ウドンコ病が入り込んでいないか十分に注意を払います。苗のしまり具合や色づけのために矮化剤処理を施すのであれば、10ppm の A-レストを葉面散布することで効果があります

プラグ生産に要するトータル期間:

392 穴のトレイを用いた場合、概ね 5-6 週

鉢上げから出荷までのステージ

培地

水はけがよく、新しく衛生的な、ピートなどを主体とした培地を用いましょう

温度

昼間温度 18-21°C、夜間温度 15°C を出荷ステージまで維持します

光条件

電照等による補光は不要です

湿度

生育環境においては高い湿度は避けましょう。湿度が高いと、ウドンコ病発生の頻度が高くなります

かん水

出荷鉢の用土の水は切らさないようにしましょう。

肥料

ポット上げ後 1 週してから、15-5-15 と 20-10-20(さらに、カルシウムとマグネシウムが添加された肥料)を 150ppm(N)の濃度で施肥を開始します。さらに、潜在的なマグネシウム欠乏を防ぐために、エプソム塩(硫酸マグネシウム)約 1 グラムを 1 リットルの水で溶かした水溶液にして 1、2 回あたえます

矮化剤処理

生長制御のために矮化剤を用いる場合は、ポット上げ後 1 週で A-レストを 20ppm 葉面散布します。さらに 10-14 日後に 2 回目の散布を行います。必要であれば、3 度目として、やはり同じくらいの間隔をおいて B-ナインを 3,500ppm で同様に葉面散布すると効果が見られます。あるいは、A-レストを 20ppm で 3 度目の葉面散布も可能です

平均的な生産期間

播種から開花までの期間(カットバック):
11-13 週(平均)-春期; 10-12 週-夏期

予想される一般的な生育障害

害虫: ハダニ、スリップス

病気: ウドンコ病

ハウス内の環境において、過湿や高湿度をできるだけ避けましょう

2005 年 9 月 改定

*: EC 値(電気伝導度)の数値は、北アメリカのピート主体の培地が算出要素になっているので、日本国内では適合し得ない場合もあります。

PanAmerican Seed

®および®は、Ball Horticultural Company のアメリカ合衆国、またその他国における登録商標です。

PanAmerican Seed Co.
622 Town Road, West Chicago, Illinois, USA 60185-2698
630 231-1400 Fax: 630 231-3609 www.panamseed.com

©2003 Ball Horticultural Company Printed in USA PAS02144
Originally issued as PAS02144 in USA, and under permission translated into
Japanese and revised in 2005. Printed in Japan